

横浜市介護支援専門員連絡協議会

連絡協議会議事録

会議名	平成30年度 9月 定例会		
開催日時	平成30年9月21日(金) 19:00~20:45	開催場所	横浜市社会福祉センター9階
議 題	1	情報提供	
	2	無料グループウェアサイボウズ Live 終了について	
	3	各委員会及び他団体の協力委員報告	
	4	その他連絡事項	

No.	議 題	内 容
1	情報提供	<p>① 「医療・ケアについてのもしも手帳の配布について」 (医療局がん・疾病対策課 西野課長 細井係長 山崎氏)</p> <p>横浜市医療局で「もしも治らない病気になったら・もしも自分の気持ちを伝えられなくなったら」などの時に本人・家族・病院でのコミュニケーションツールとして、「もしも手帳」を作成した。手軽に使えるために、お薬手帳サイズとした。</p> <p>横浜市民にただ配布するのではなく、説明し理解を得て配布する。なお、事前指示書や遺言書と違い、「もしも手帳」に法的効力はない。31年2月から配布する予定で、配布に協力を頂ける場合は「配布調査票」に記載し、担当に送付してほしい。50部を一口として送付する。締め切りは11/23(金)までとする。</p> <p>・質疑応答(YはYCM・局は医療局)</p> <p>Y「これは確定版か。また、周知を始めて良いか」 →局「1月に完成の予定。関係者へは話はして構わない」</p> <p>Y「居宅事業所以外に、訪問看護などへの周知はするのか」 →局「希望のあった地域ケアプラザや薬局には配布する。医師会や病院、在宅看護協会、また特養等の施設へも依頼をする」</p> <p>Y「11/23の締切以降の対応はどうか」 →局「その後も継続するつもりでいる。ただ、状況がつかめないのので、状況に応じて発注などの対応をする」</p> <p>Y「エンディングノートとの兼ね合いはどうか」 →局「エンディングノートと整合性はとれるようにしている。エンディングノートの前段階でも後でも、きっかけ作りとして活用してほしい」</p> <p>Y「案内文は横浜市ホームページから観られるのか」</p>

→局「市民へ配布できる段階にならないと、ホームページへの掲載はできない。事業所への案内として、問い合わせがあればメールで送ることはできる」

Y「救急搬送時の病院は、これを見て本人の意思とするのか」

→局「病院の判断材料の一つとなるとは考える」

② 「在宅医療・介護通訳の派遣について」

(特定非営利活動法人 多言語社会リソースかながわ(MIC かながわ)事務局 森田氏 佐藤氏)

現在「MIC かながわ」では、在日外国人の言葉の壁の対策として、医療機関と通訳派遣の協定を結び、医療通訳を派遣している。

昨今の病院から在宅の流れにより、在宅への通訳派遣を2015年9月から施行したが、これまで3年間で27件しか依頼がない。

在宅で利用の場合は、事業所ごとに覚書(難しいものでなく、紙一枚)を交わしてから利用となり、当面2年間は無料となる。これまでの依頼は、「行政・訪問看護・在宅医療機関・地域包括支援センター・老健」などから、「終末期の家族の意思確認・糖尿病の服薬管理・認定調査時」などがあつた。

今後の参考としたいので、在日外国人に関して現場の事例を教えてください。

・現場の事例・意見・質問など

「妻が中国人で、介護保険サービス利用時の説明の理解が、しっかりとできていなかった」

「中国人の方で、認知症になったら日本語が話せなくなった」

「中国語と言っても何種類もある。それでも対応はできるのか

→何語かわかれば、事前に教えてもらえれば、対応者を探す」

「利用回数の制限はあるのか

→今のところはない」

「横浜市だけでの利用なのか

→神奈川県内で利用できる」

③ 「認知症初期集中支援チーム18区設置、チームのさらなる活用に向けて」

(福祉局高齢在宅支援課 認知症等担当 佐藤係長)

30年9/1で横浜市内18区全て設置が完了した。

(29年度の実績報告を受ける)

・質疑応答(YはYCM・局は福祉局)

Y「認知症と疑われるが受診をしないので、包括に相談すると区役所と言われた。区役所に相談すると、“認知症初期集中支援チームは話し合いの場”と言われた」

→局「まだ開始後間もないので、区でも対応できていなかった。今後さらに周知を徹底する」

Y「“認知症初期集中支援チームの対象でない”と言われたが、その理

		<p>由がわからなかった」</p> <p>→局「区も包括も理解不足がある。さらに周知と理解を進める」</p> <p>Y「区も包括も、認知症初期集中支援チームにつなげようと言っていたが、一向につながらず、その内に支援が入ってしまった」</p> <p>→局「対応が行き届かない部分もある。しっかり対応できるようにしていく」</p> <p>Y「認知症初期集中支援チームにつなぎ、スムーズに対応して頂けたが、報告が口頭だった。書面で頂けるとありがたい」</p> <p>→局「そのようにできるよう、検討する」</p>
2	無料グループウェア サイボウズ Live 終了について	<p>・松下広報委員長・小松副代表(兼広報委員)より</p> <p>現在 YCM で利用しているサイボウズが終了となることに伴い、今後は「キントーン」へ移行する。すでに申し込みは済み、審査の後に利用可否の結果が届き、来月には結果報告ができると思われる。利用費用は、「年間 300 人までで 9000 円」となる。</p> <p>なお、「キントーン」はこれまでと使い方が違うので、キントーン参加者が戸惑わず使えるように、広報委員会でフォローする。</p>
3	各委員会及び他団体の 協力委員報告	<p>○医療連携委員会 報告事項なし。</p> <p>○制度対策委員会(原田氏)</p> <p>「次期介護保険制度改定内容に対するアンケート」を今年度を実施する。内容は主として「居宅介護支援事業所管理者の主任ケアマネジャー要件」「居宅介護支援費の利用者負担」についてとなる。</p> <p>サイボウズにアップするので、各区にて対応をお願いする。なお、アンケートの返信は各ブロック毎とする。じっくりと考えてほしいので、締め切りは 2019 年 2 月末とする。なお、集計において必要なので、各区で配布枚数のカウントをお願いする。</p> <p>アンケート記載は、事業所単位でなく個人単位とする。</p> <p>回収率アップをはかるため、アンケート協力の依頼文に「横浜市へ提言する」の文言を入れる。</p> <p>○広報委員会(松下氏)</p> <p>平成 30 年度の各区ケアマネ連絡会の年間計画の送付を受けた。今後も、連絡会の報告や写真、これまでの活動もあれば、送付頂ければホームページにアップする。</p> <p>○会計(佐藤氏)</p> <p>鶴見区と都筑区は、今年度の区会費が未納となっている。</p> <p>○事務局(原田氏)</p> <p>京都と広島のカケアマネジャー連絡会から、過去に横浜市介護支援専門員連絡協議会が実施したアンケートについて、問い合わせを受けた。</p> <p>「横浜市」は他団体から注目される立場にある。今後も引き続き、アンケートの実施や集計を適切に実施していく。</p> <p>○他団体協力委員</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市認知症施策検討会(高部氏) 各区での取り組みや、認知症初期集中支援チームなどの報告を受けた。 なお、年一回の開催なので、今年度は終了となる。 ・横浜市在宅療養連携推進協議会(小嶋氏) 8/30 に一回目が開催され、次回は来年1月の予定。 「認知症初期集中支援チーム」「もしも手帳」について報告を受け、意見交換を実施した。 ・横浜市福祉有償移動サービス運営協議会(深井氏) 6/18 に開催され、次回は11/9の予定。新規参入事業所について、審議をしている。 ・横浜市認知症疾患医療センター認知症疾患医療連携協議会 南部、西部、東部ともに、今年度の活動はまだなし。
4	その他連絡事項	<p>①訪問介護連絡協議会合同研修の総括(加藤代表) 皆様のご尽力で大盛況であった。横浜市健康福祉局の参加者からも、「寸劇も座談会も素晴らしかった」とのお声を頂いている。横浜市内全18区から参加者があった。神奈川新聞記者も来訪していて、当日の取材記事の掲載日が分かればお知らせする。</p> <p>②県協会 平成30年度第1回協力団体会員会長会議(加藤代表) 9/10(月)にウィリング横浜で開催された。県内43団体中19団体が参加し、横浜市からは5団体が参加した。 主に、県協活動報告とケアプラン点検について意見交換をした。ケアプラン点検は、県内では海老名市などいくつかの市町村で実施されている。実施された市町村では、「ケアプランはランダムに選ばれた・点検前は不安だったが、来てもらって良かった」などの声があった。</p>

次回：30年10月19日(金) 19時から
横浜市社会福祉センターにて